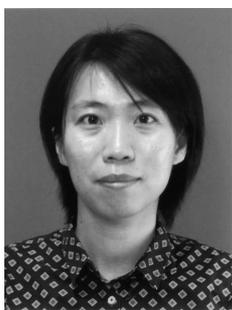


## 総合研究奨励賞 (結城賞)



竹内 真衣

## 略 歴

昭和58年12月23日生  
平成14年3月 奈良県立奈良高等学校卒業  
平成20年3月 神戸大学医学部卒業  
平成22年4月 神戸大学医学部附属病院病理診断科 医員  
平成24年4月 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 腫瘍病理 特別  
研究学生  
平成26年4月 神戸大学医学部附属病院病理診断科 医員  
平成26年12月 神戸大学医学部附属病院病理診断科 特定助教  
平成27年3月 神戸大学大学院医学研究科卒業  
平成27年4月 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 腫瘍病理 助教

## 研究論文内容要旨

IgG4関連疾患は近年注目を集めている新しい疾患概念であるが、その病態形成機序については十分に解明されていない。IgG4関連疾患の病変部においてInterleukin (IL) -4, 10, 13, Transforming growth factor (TGF) - $\beta$ 1といったTh2/Tregサイトカインの発現が亢進している事が知られており、病態形成機序に重要な役割を果たしていると考えられている。しかしながらこれらのサイトカインをどの細胞が産生するかについてはこれまで証明されていなかった。本研究ではIgG4関連唾液腺炎の症例を用いてサイトカインの産生細胞の特定を試みた。

サイトカインの発現をreal-time PCRで検討すると、IgG4関連疾患群ではコントロールの唾石症群、正常唾液腺群と比較して有意にIL-4, IL-10, TGF- $\beta$ 1の発現が亢進していた。そして、免疫染色においてこれらのサイトカイン陽性細胞数はIgG4関連疾患群において他のコントロール2群より有意に増加していた。観察されるサイトカイン陽性細胞の形態はマスト細胞に類似しており、蛍光二重染色で確認したところc-kit陽性のマスト細胞がサイトカイン陽性細胞と一致する事が示された。以上よりIgG4関連疾患の病態形成機序に重要とされるサイトカインをマスト細胞が産生している可能性が示唆された。